

素敵な人みーつけた！

# みよしきらっと☆インタビュー

## 『なんでもチャレンジ！ 人生を楽しむ』達人

石上馨次郎さん



夫の定年後、石上さんのお宅ではそれまでと違う新しいライフスタイルが始まりました。家事はすべて協力し合い、馨次郎さんが主夫として大活躍。お元気でいきいきと活動されているお二人の生活をご紹介します。



☆なぜ、家事をするようになったのですか？

私は、新潟の上越 高田の生まれです。雪が深い所で、半年間は家族全員が家の中で過ごし、後の半年は大人が働きに出かけ、小学生が家事の主体责任があたりまえでした。定年までは43年間、営業の仕事に専念し、今は楽しく家事に挑戦しています。

☆家事は具体的に何をされるのですか？

炊事・洗濯・掃除・買物・ゴミ出しetc何でもやります。営業の仕事で得意先への気配りが身についたのかもしれない。言われてやらされるのではなく、気がついた事を自分でやっています。

## 人の役に立ちたい！ 使命感いっぱいの救急救命士

江成雅美さん



今まで男性の職場といわれていた分野に果敢に挑戦している女性が増えていきます。入間東部消防組合中央消防署 三芳分署に所属の江成雅美さんもその一人。分署の建替えて女性が宿直できる環境が整い、三芳にも初の女性救急救命士が誕生しました。笑顔でインタビューに答えてくれた江成さんをご紹介します。

☆この仕事を選んだ理由

人の役に立ちたいと思ったからです。祖父の死の際、医者に診てもらったままの時間がかかり、疑問に感じた経験もきっかけになったと思います。

☆救急救命士になって良かったこと、苦労したこと

傷病者や家族の方から「ありがとう」と言ってもらえた時はとてもうれしいです。苦労というと、どうしても体力的には男性より劣っている面でしょうか。救急に3人1組で向かうのでマンションなどの上階から階段で降りる場合などは大変な力が必要です。そんなときは他の隊員に負担がかかってしまうので、仲間に助けられているなと感じています。夜間の救急では小児科の受入が少なく社会問題となっていますが、この地域でも一番苦労することです。



### ☆趣味はなんですか？

ガーデニングとまではいきませんがお花が好きです。庭で花をいじっているとご近所の方が話しかけすぐに井戸端会議になります。それから3年前から写真を始めました。また、社会福祉協議会の運転ボランティアをしていました。今は福祉の囲碁・将棋の会の会長を務めさせて頂き、障害をもった方の送迎をしています。

### ☆妻 光子さんの声

夫は、前から自分のことは自分でする人でした。人が好きで何でも楽しく考え、好奇心が旺盛でちょっとせつかちです。私はどちらかというとおっとりで、あまりこだわらない性格です。意見が違うこともたくさんありますが、お互いにマイペースで相手の違いを自分にないものとして尊重している感じです。今は特に健康に気をつけて、家事も二人でサポートし合ひながら毎日過ごしています。

### ☆インタビュアーの感想

最後に「音楽と味のセンスは、妻にアドバイスと励ましをもらっています。」と笑いながら一言。人が大勢集まる明るい家庭の隅々に、石上さんご夫妻の「人に喜ばれることが一番うれしい」という素敵な生き方がピッシリ詰まっています。

(インタビュアー：山崎和美)

### ☆定年から10年家事をやってきた感想は？

私はじつとしていられない性格で動いている事が大好きです。家事も毎日楽しく自然にやっていますから全然苦になりません。特にアイロン掛けはいつでも「自分の好きな服が着られる」ので大好きです。



### ☆仕事を始めた頃と現在との違い

男性ばかりの職場なので、最初はどうコミュニケーションを取ればいいのかと気になりましたが、すぐにそんな心配はいらないと思いました。多分まわりの配慮があったからだと思います。現場に行けば男とか女とか、そんなことは全く関係ありません。

### ☆まわりの人の変化

両親や友人も始めは驚いていました。今はすごく応援してくれています。出勤先で珍しがられたこともあります。もともと女性が増えて、女性の救急士があたりまえに感じられるようになっていきました。

### ☆インタビュアーの感想

「女性だからこそ気づくことがあるんです」と江成さん。自分の視点を活かして仕事をしているそうです。そうした心遣いや日頃の努力で接する人に安心感を与え、優しさで人を守る正義感が伝わってきました。さまざまな分野に女性が進出しつつありますが、まだまだ多くの障害があることでしょう。しかし、江成さんのようなチャレンジ精神と自分をしっかり見つめる力がそれを超えるエネルギーになるのだと思います。女性の採用がもっと増えていくことに期待したいです。身近で活躍する江成さんは、次の世代を受け継ぐ三芳の子どもたちにも、大きな勇気と希望を与えてくれることでしょう。

(インタビュアー：向吉孝子・岩城桂子)

